

## 市民手作りの計画が完成

～市民大集会『きずな報告<sup>アンド</sup>&シンポジウム』～

3月25日(土)、市民会館で『市民大集会「きずな報告&シンポジウム」』（登別市社会福祉協議会主催）が行われました。

この集会は、本格的な少子高齢化時代を迎え、高齢者福祉の充実など、市民主体の福祉のまちづくりを目指し、延べ1万5,000人の市民の参画を得て策定された『地域福祉実践計画』（愛称：きずな）への理解を深めてもらおうと開催されたもので、約450人の市民が参加しました。

同計画は、平成18年度から22年度までの5カ年を期間とし、『誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり』を目標に、地域活動を支える人材やボランティアを育成する『まちびとプラン』『きずな共育（福祉教育）』の推進など、131の事業が盛り込まれています。

集会は、若草小学校4年生の皆さんが『絆』『未来の地図』の2曲を合唱した後、福祉のまちづくり推進会副委員長の石本繁雄さんが、『きずな』完成までの経過を報告しました。

続いて、コーディネーターに大内高雄さん（北星学園大学教授）、シンポジストに上野市長、山田正幸さん（登別市連合町内会長）、高山重信さん（登別肢体不自由児者父母の会会長）、星川光子さん（NPO法人いぶりたすけ愛理事長）の4人によるシンポジウムが開かれ、さまざまな感想や意見、要望などが出されていました。



▲若草小学校4年生による合唱

## 災害から生命・財産を守るために ～災害予想区域図（ハザードマップ）原案提出～

3月27日(月)、市役所で、災害予想区域図の原案が、室蘭工業大学教授の岸徳光さんから上野市長に手渡されました。

災害予想区域図は、大雨洪水や土砂、津波、火山噴火などの各災害における危険区域図や避難場所、非常持ち出し品、非常時の心構えなどを掲載したもので、市が室蘭テクノセンターに委託し、同センターと室蘭工業大学の共同研究事業として、昨年から作成を進めてきました。

岸さんは、「災害予想区域図ができたことで、安心してはだめ。災害はいつ起こるかわかりません。避難の際には行政の指示を待つのではなく、自分たちで避難するように市民に周知することが大切です」と述べていました。

なお、災害予想区域図は、本年度中に市民の皆さんのご家庭に配布する予定です。



## 消費生活の安定を目指して ～平成18年度登別市消費生活モニター委嘱状交付式～

4月5日(木)、市役所で『平成18年度登別市消費生活モニター委嘱状交付式』が行われました。

消費生活モニターは、消費生活の安定を図るため、市内の28店舗を対象に、皆さんの生活に欠かせない食料や灯油、トイレトーパー、クリーニングなどの商品・サービスの35品目の料金、野菜や鮮魚類の生産地表示の有無などを毎月調査します。

この日は、山崎市民生活部長のあいさつの後、モニター7人のうち出席した4人に委嘱状が手渡されました。

市は、モニターの皆さんの調査結果を消費生活に役立ててもらうため、市役所や各支所に備えて、市民の皆さんにお知らせすることにしています。

